

「偕楽園なんでも百科」発刊



第9号
偕楽園公園を愛する市民の会

親子で楽しめる偕楽園の案内が欲しい

会が平成二十二年度の事業として取り組んでいた「偕楽園なんでも百科」が完成しました。

偕楽園には毎年梅まつりの時期に観梅客に向けたパンフレットがたくさん発行されますが、梅だけでない四季の偕楽園の姿、好文亭や豊かな自然の楽しみ方などを伝えてくれるわかりやすい案内書を手に入れるのは困難でした。偕楽園の全体像と魅力を広く伝える本が欲しいという声が会員から起こり、平成二十一年秋に検討を始めました。

その結果、①偕楽園の多面的な魅力と歴史的、文化的意義を伝える、②次世代を担う子供たちにわかるよう易しく、楽しい本にするという方向が決まり、五〇万円の予算で平成二十二年度に発行することになりました。



完成した本はA4版オールカラー四八ページの冊子です。多数の写真や図版を散りばめ、漢字にルビを振り、平易な文章にして小学校中学年から読めるものになりました。

本は、次の五つの見出しのもとに、偕楽園の魅力と意義のすべてを伝えていきます。

偕楽園ってどんなところ
偕楽園は楽しみがいっぱい
弘道館ってどんなところ
水戸藩ってなあに
偕楽園公園とまちづくり
特に「偕楽園は楽しみがいっぱい」の内容は、次のように偕楽園の魅力をいろいろな面から余すところなく紹介しました。

- 偕楽園は楽しみがいっぱい
- 梅林散策の楽しみ
- 表門から「陰」の世界へ
- 「陰」の世界から光り輝く「陽」の世界へ
- 園内の石碑めぐり
- 四季の行事
- 季節を彩る花木・生き物たち
- 千波湖の魅力
- 千波湖とまわりの生き物たち
- 周辺にも見どころがいっぱい

皆で執筆、多くの意見を反映

平成二十二年四月に大槻功・仲田光子各副会長、浅川きよ・鹿熊律子・田中康成各理事の五名が編集委員となり、内容を考へて仮目次を定め、各ページの図表と文章の原案をその分野に詳しい会員が分担して作成しました。また、写真の撮影を小菅次男副会長や佐藤典夫理事などのベテランに依頼しました。

編集委員は担当者から集まった原稿をとりまとめて、写真の重複を整理したり、文章を易しくしたりなど編集に当たりました。また、公園の歴史や造園に詳しい



宮嶋敬夫顧問、水戸の歴史に精通した久野勝弥副会長と石島弘之監事に点検を願ひ、全体的なデザインプランを茨城大学の島田裕之先生と教え子に依頼して第一次原稿を作成しました。

この原稿を茨城県公園街路課・偕楽園と弘道館の現場の職員、水戸市教育委員会文化課などの専門家と、水戸市総合教育研究所と常磐小学校の教員に検討をお願いし、それぞれから貴重な意見を頂きました。

発行と配布・活用

本は三〇〇〇部を印刷して、市内の全小学校に二〇部ずつ、市内の図書館や市民センター・公民館などにも数部ずつ配布して、学校や家庭での活用を図ります。水戸市の分については、近日中に水戸市に贈呈式を行なう予定です。

さらに、資料提供者や水戸市内で観光や教育・文化に携わっている関係機関・団体などにも配布し、内容や使い方に付いて意見をいただくこととしています。

この本を偕楽園の重要な資産として活用したいと思えます。アイデアをお寄せ下さい。また、会員や活用を望まれる方には配布しますが、その際実費を負担していただくことがあります(五百円程度)。希望する方は事務局にお申し出ください。

